



# 環境社会報告書2014

# 会社概要

発足 2012年7月  
本社所在地 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地  
資本金 68.5億円  
従業員数 約7,600名  
事業内容 トヨタ車の企画・研究開発・生産

## 《事業所》



**本社・宮城大衡工場**  
〒981-3609  
宮城県黒川郡大衡村中央平1番地  
TEL (022) 765-6000 (大代表)



**宮城大和工場**  
〒981-3408  
宮城県黒川郡大和町松坂平5-1-1  
TEL (022) 345-6711 (大代表)



**岩手工場**  
〒029-4503  
岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1  
TEL (0197) 41-1120 (大代表)



**東富士総合センター**  
〒410-1198  
静岡県裾野市御宿1501  
TEL (055) 996-2000 (大代表)



**東富士工場**  
〒410-1195  
静岡県裾野市御宿1200  
TEL (055) 997-1111 (大代表)



**須山工場**  
〒410-1231  
静岡県裾野市須山2810-1  
TEL (055) 965-1700

## 《海外拠点》



**横須賀事業所**  
〒237-8585  
神奈川県横須賀市田浦港町無番地  
TEL (046) 861-5111 (大代表)



**ブラジル ソロカバ工場**  
KANJIKO DO BRASIL  
INDUSTRIA AUTOMOTIVA LTDA.

**ブラジル サルト工場**



**タイ**  
ACSE  
Auto CS Engineering Co., Ltd.



カローラアクシオ  
COROLLA Axio

カローラフィールダー  
COROLLA FIELDER

ヤリスセダン  
YARIS SEDAN



アクア  
AQUA

ラクティス  
Ractis

イスト  
iSt



センチュリー  
Century



アイシス  
Isis



ポルテ  
Porte



スパイド  
SPADE



クラウンセダン  
CROWN SEDAN

クラウンコンフォート  
CROWN COMFORT

コンフォート  
TOYOTA COMFORT

## 目次

### トップメッセージ

魅力あるコンパクト車づくり  
世界No. 1を目指して ..... 4

### 会社方針

目指す姿 ..... 5

### トピックス

東北復興に向けて ..... 6

### 環境報告

環境への取組みの考え方 ..... 8  
第5次環境取組みプラン ..... 9  
2013年度活動実績 ..... 10  
開発・設計 ..... 11  
生産 ..... 13  
環境保全活動 ..... 17  
地域社会とのコミュニケーション活動 ..... 22  
子会社の取組み ..... 23

### 社会性報告

お客様との関わり ..... 24  
社会との関わり ..... 26  
仕入先との関わり ..... 29  
従業員との関わり ..... 30

# 自動車部品



エンジン  
Engine



トルクコンバーター  
Torque Converter



アクスル  
Axle



電子制御  
ブレーキ・システム  
Electronically Controlled  
Brake System

※本報告書は2013年度(2013年4月~2014年3月)における当社の単独ベースでの環境への取組みを主体にまとめ、一部においては2014年度を含みます。

#### 表紙の写真

宮城県木「けやき並木」：仙台市若林区

## トップメッセージ

# 魅力あるコンパクト車づくり 世界No.1を目指して



取締役社長

白根 武史

### はじめに

トヨタ自動車東日本は、関東自動車工業・セントラル自動車・トヨタ自動車東北の3社が統合し、2012年7月に誕生いたしました。

統合3年目にあたる本年は、当社の目指す姿である『東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる』の実現に向けて、グローバルな視点で「魅力あるコンパクト車の企画提案力を強化」するとともに、東北の地にしっかりと根を張り、地域の皆様と連携・切磋琢磨した「ものづくり改革を通じて競争力を向上」させ、いつの時代も一歩先を行くクルマづくりで世界をリードしていきたいと考えております。

### 人と地球環境に配慮した車づくり

当社は自動車産業に関わる企業として、地域社会から信頼されるために法令遵守を前提とした取組みと地球温暖化などの環境問題への取組みを経営の最重要課題の一つとして位置付けております。

この課題解決に向け、現在、2015年度を目標年度とした「第5次環境取組みプラン」を策定し、その達成に向けた取組みを推進しております。

このプランでは「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を3本柱とし、環境にやさしいクルマの企画・開発と地域と共生し自然と調和するものづくり等、全社を挙げて取り組んでおります。

具体的な取組みとしては、先進的な環境性能を持つコンパクトHV車「アクア」に代表されるボディ開発での軽量化による燃費向上やりサイクル性向上を推進するとともに、自然と調和する「サステナブルプラント活動」として、雪冷熱や地中熱利用など地域の特徴を活かし、自然エネルギーを利用した取組みを推進しております。

この報告書により、当社の取組み姿勢や活動内容をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお待ちしております。

今後もお客様、社会・環境との調和を図りながら、一層の努力を続けてまいります。

皆様のご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2014年6月

本年は当社が誕生して以来、3年目の年にあたります。「3社統合を完結させる」という強い思いと意志を持って推進するとともに、会社方針の達成に向け全社一丸で取組んでまいります。

さて、世界の自動車市場は、米国市場が堅調で欧州市場においても回復が見込まれる一方で、新興国市場の成長に陰りが見られるなど、先を見通すことが難しい状況が続くものと予想されます。国内市場においても、消費増税に伴う需要の減少により先行きは不透明で、依然として厳しい状況にあります。

このような経営環境下で、持続的な成長を目指し、魅力あるコンパクト車をお客様にお届けするために、以下の3点を重点推進事項として取組みを進め、トヨタグループ全体のグローバル成長に貢献してまいります。

1. もっといいクルマを企画・提案し、“世に出す” 実行力を強化
2. “東北を基盤” とし、根ざした企業となる
3. グローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力の確保

上記事項の取組みにあたっては、より厳しい経営環境に柔軟に対応できるよう、企業体質を一層強化していくとともに、安全・健康、品質、人材育成といった企業の基礎である取組みを全社を挙げて推進してまいります。

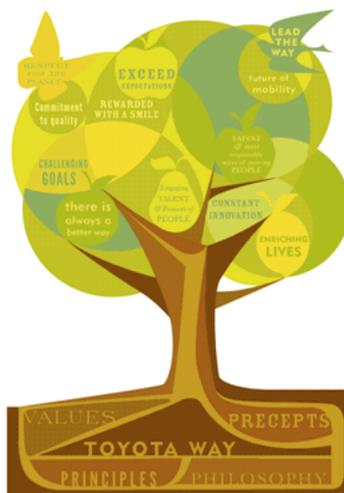
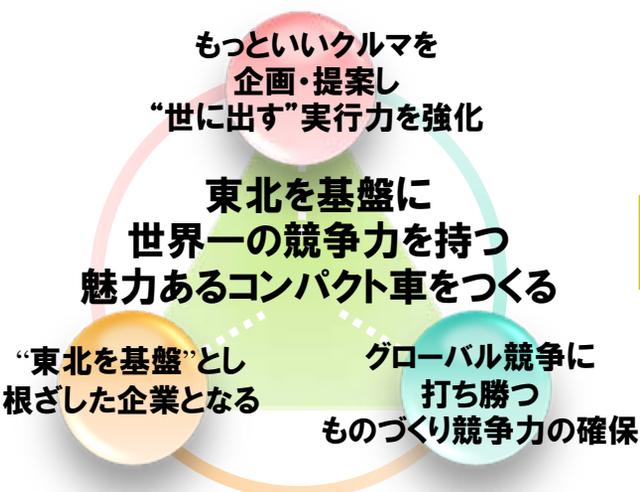
特に、CSR活動においては、社会のルールを正面から受け止め遵守する企業として、一人ひとりが地域から信頼していただくための活動を率先して行なってまいります。

これらの取組みを通じて、お客様・社会・環境との調和を図り、真摯に謙虚に努力を重ねてまいります。

トヨタグローバルビジョン

**笑顔のために。期待を超えて**

Rewarded with a smile by exceeding your expectations



toyota global vision

## 東北復興に向けて

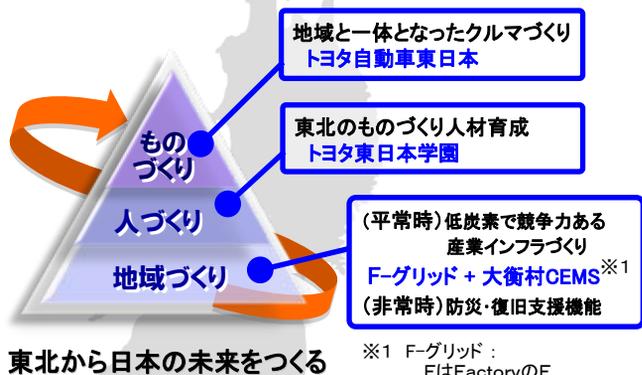
### ■ 東北の復興支援を継続的に推進

当社は2013年4月10日、トヨタ自動車(株)、豊田通商(株)とともに、「東北復興プロジェクト・グランドオープニングセレモニー」を開催し、『ものづくり』『人づくり』『地域づくり』を通じた東北復興に継続的かつ長期的に取り組んでいくことを宣言し、推進しています。

#### 東北復興プロジェクト

このプロジェクトは「ものづくりは人づくり」という考えのもと、ものづくりを通じて『いい町・いい社会づくり』に貢献していくという思いを具現化したものです。

安心・快適に暮らせる地域社会へ地域の人達と一緒に取り組むことによって東北の未来をつくり、そして東北から日本の未来をつくる取り組みを進めています。



※1 F-グリッド：  
FはFactoryのF  
グリッドはエネルギー網を表す  
CEMS：  
Community Energy  
Management System  
(地域のエネルギー供給を  
マネジメントするシステム)

#### 地域と一体となったものづくり(クルマづくり)

当社の目指す姿「東北を基盤に世界一の競争力を持つ魅力あるコンパクト車をつくる」の実現に向け、従来から協力いただいている企業の皆様や東北の新しい企業の皆様とタイアップし、東北をものづくりの拠点とすべく取り組んでいます。



関連企業との共同展示会  
(現地調達化に向けた取り組み)



TMEJ協会 第2回定期総会

### 1. 地場企業との信頼関係を構築し現地調達化を推進

#### 1) 東北現調化センターの取り組み

- ・関連企業との共同展示会を通じて現調化拡大を推進

#### 2) TMEJ※2協定会 東北部会の取り組み

- ・東北地場企業と当社とのネットワークづくり
- ・相互研鑽によるQCD※3の向上

※2 Toyota Motor East Japan (トヨタ自動車東日本の英文呼称)

※3 Q:品質向上 C:コスト低減 D:納期短縮

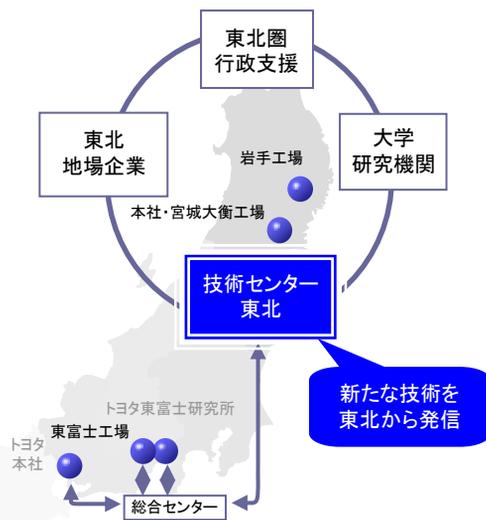
#### 3) ものづくり研鑽センターの取り組み

- ・地場企業と当社の相互研鑽による競争力向上

### 2. 先端技術の発信に向けて 産学官共同研究・開発を加速

#### 1) 技術センター東北 拡大

- ・東北を基盤に要素技術の研究開発を促進



### 東北のものづくり人材育成

#### 1. トヨタ東日本学園の開校

当社は2013年4月に企業内訓練校「トヨタ東日本学園」を開校し、将来、ものづくり現場の中核として活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

また、当社の社員だけではなく、東北に拠点を置く企業の若手人材も受入れてものづくりの技能を学び、「人づくりを通じて東北のものづくり基盤の強化」に貢献しております。



トヨタ東日本学園

#### 2. トヨタ東日本学園の教育

トヨタのものづくりの基礎・基本を現地・現物で学んでいます。

- 1) 基礎知識・技能の習得(学園)と応用実習(宮城大衡工場・宮城大和工場)
- 2) トヨタのものづくりの考え方(標準作業、改善など)や東北の伝統工芸を学ぶ
- 3) 指導者は10年以上の現場経験者で構成



基礎実習(学園)



応用実習(工場)

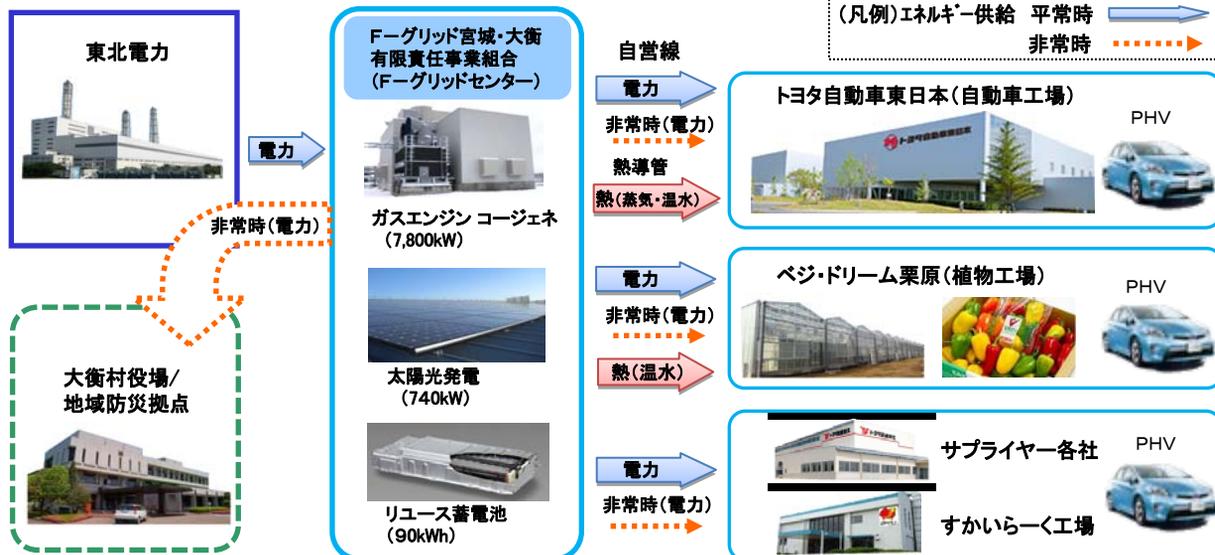


学科(学園)

### 低炭素で競争力ある産業インフラづくり(地域づくり)

宮城県大衡村の第二仙台北部工業団地内において、「地域と工業団地が一体となった安全で安心なまちづくり」や「地域産業振興」、「地域活性化」に貢献することを目指し、取り組んでおります。

- ・平常時はF-グリッドセンターが工業団地内のエネルギーを一括管理し、コントロール。ガスエンジンコージェネと太陽光パネルで作出した電力・熱を最適なバランスで効率良く供給
- ・非常時はF-グリッドで発電した電力を東北電力を通じて周辺地域に供給することに加え、F-グリッド参画企業にも供給し、復旧活動を支援



## 環境への取組みの考え方

当社はより高い目標にチャレンジするためにトヨタ自動車(株)の「トヨタ地球環境憲章」を受け、「環境に関する取組みの基本方針」を2012年7月に制定して活動しています。また、当社の「基本理念」に、環境に配慮した経営を最重要課題であることを盛り込み、取組み姿勢をさらに明確にして環境保全活動を推進しています。

### 環境に関する取組みの基本方針

#### 1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため環境との調和のある成長を目指し、事業活動の全ての領域を通じてゼロエミッションに挑戦します。

#### 2. 環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し、環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取り組めます。

#### 3. 自主的な取組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取組みを推進していきます。



環境ロゴマーク

#### 4. 社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力はもとより、政府、自治体を始め、環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

### 環境取組み体制

#### 環境会議

当社の重要環境課題について対応の方向付けを行い、環境保全活動の推進を図ります。〔議長：環境担当役員 委員：関係役員・部長〕

本社・宮城大衡工場 環境会議

宮城大和工場 環境会議

岩手工場 環境会議

東富士工場 環境会議

東富士総合センター及び横須賀地区 環境会議

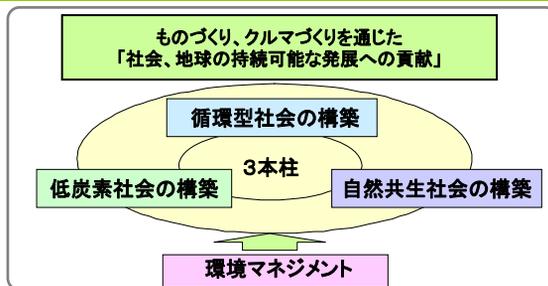
地区ごとの環境保全活動の検討と推進を図ります。

オールTMEJ 環境会議

当社の連結子会社と環境関係情報の共有化を図り、連携して環境保全活動を推進します。

## 第5次環境取組みプラン

当社は第5次環境取組みプラン※1に基づき、社会・地球の持続可能な発展に貢献するため、「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」を構築することを目指しています。



※1 対象期間:2011年度~2015年度の5カ年

取組み項目		具体的な実施事項・目標								
低炭素社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車燃費向上に寄与する軽量化、電力と熱効率の優れた車両構造の開発と製品化</li> <li>高張力鋼板、材料置換による軽量化</li> <li>消費電力低減につながるボディ構造の開発</li> <li>走行抵抗低減や熱効率の優れたボディ構造の開発</li> </ul>								
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産活動における省エネ活動の徹底と温室効果ガス排出量の低減</li> <li>低CO<sub>2</sub>生産技術の開発・導入と日常改善によるCO<sub>2</sub>低減活動の推進（生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動を展開）</li> <li>再生可能エネルギーの活用</li> </ul> <p style="text-align: right;">＜CO<sub>2</sub>低減目標＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>基準年</th> <th>目標(2013年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>台当たり排出量※</td> <td>2001年</td> <td>30%減</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">※:ボディ・塗装・組立工程を対象とする</p>	項目	基準年	目標(2013年)	台当たり排出量※	2001年	30%減		
	項目	基準年	目標(2013年)							
台当たり排出量※	2001年	30%減								
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流活動における輸送効率の追求とCO<sub>2</sub>排出量の低減</li> <li>輸送効率の一層の向上によるCO<sub>2</sub>低減活動の推進</li> <li>気候変動政策への積極的な協力</li> <li>経団連・自動車車体工業会等、産業界の低炭素社会構築への取組み推進</li> </ul>									
循環型社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源の有効利用に配慮したリサイクル設計の一層の推進</li> <li>解体、リサイクルが容易な車両の開発推進と展開</li> <li>トヨタエコプラスチック等、再生可能資源、リサイクル材の使用拡大</li> </ul>								
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進</li> <li>廃棄物の発生量低減活動推進（塗装工程の廃棄塗料低減等）</li> <li>物流：梱包、包装仕様のシンプル・スリム化、容器のリターナブル化推進</li> <li>水：継続的な水使用量の低減</li> </ul> <p style="text-align: right;">＜廃棄物低減目標＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">対象</th> <th>目標(2013年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">排出物</td> <td>有価物</td> <td>金属屑等、発生量低減活動及びオールトヨタ内有効活用の推進</td> </tr> <tr> <td>廃棄物</td> <td>台当たり発生量2001年比25%減</td> </tr> </tbody> </table>	対象		目標(2013年)	排出物	有価物	金属屑等、発生量低減活動及びオールトヨタ内有効活用の推進	廃棄物	台当たり発生量2001年比25%減
	対象		目標(2013年)							
排出物	有価物	金属屑等、発生量低減活動及びオールトヨタ内有効活用の推進								
	廃棄物	台当たり発生量2001年比25%減								
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型社会の構築への貢献</li> <li>環境改善・資源循環社会構築に向けた技術開発の推進</li> </ul>									
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品含有化学物質の管理充実</li> <li>グローバルな製品含有化学物質管理の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>-規制重金属全廃（鉛・水銀等）</li> <li>-製品に含有される多様な化学物質管理の充実</li> <li>-環境負荷のより少ない物質への代替技術の開発と代替推進</li> </ul> </li> </ul>								
	生産・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産活動における環境負荷物質の低減</li> <li>塗装工程における塗料、シンナーの削減等 VOC※低減技術の開発と導入</li> </ul> <p style="text-align: center; font-size: small;">※VOC (Volatile Organic Compounds) 揮発性有機化合物(シンナー等)</p> <p style="text-align: right;">＜VOC低減目標＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto;"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>目標(2013年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボデー塗装</td> <td>25.5g/m<sup>2</sup>(全ライン平均)</td> </tr> <tr> <td>その他の塗装</td> <td>VOC低減活動の推進</td> </tr> </tbody> </table>	対象	目標(2013年)	ボデー塗装	25.5g/m <sup>2</sup> (全ライン平均)	その他の塗装	VOC低減活動の推進		
	対象	目標(2013年)								
ボデー塗装	25.5g/m <sup>2</sup> (全ライン平均)									
その他の塗装	VOC低減活動の推進									
社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進（生物多様性の重要性を認識した活動）</li> <li>構内森づくりと森づくりを通じた環境教育の充実</li> <li>地域の植樹・自然保護活動への積極的な参加（サステナブルプラント活動の推進）</li> </ul>									
環境マネジメント	環境マネジメントの強化、推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理(EMS※)活動の充実</li> <li>環境法令の遵守と環境リスク未然防止活動の強化</li> </ul> <p style="text-align: center; font-size: small;">※EMS: Environmental Management System: 環境マネジメントシステム</p>								
	ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>部品、原材料、資材などに含まれる化学物質管理の充実</li> <li>仕入先への環境法令遵守の要請</li> </ul>								
	サステナブルプラント活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を活用し、自然と調和する工場づくりとノウハウの展開</li> <li>低CO<sub>2</sub>生産技術開発、日常改善、再生可能エネルギー、工場の森づくりの推進</li> </ul>								
	環境教育活動の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の環境意識の向上に向けた環境教育の体系化と実践</li> <li>連結事業体と連携した環境教育の推進</li> <li>環境月間活動および省エネ月間活動の展開</li> </ul>								
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実</li> </ul>								

## 2013年度活動実績

2013年度は「第5次環境取組みプラン」の3年目として、全ての項目で目標を達成することができました。

目標('13年度)		活動実績		関連ページ
開発・設計	開発車種毎に質量目標設定	質量目標を達成	● 開発車種別に質量目標達成活動を推進	P11
生産	CO <sub>2</sub> 排出量 146 kg-CO <sub>2</sub> / 台 以下	144 kg-CO <sub>2</sub> / 台	● CO <sub>2</sub> 低減アイテムの横展活動と日常改善の推進 ・設備の運転条件最適化 ・非稼働時の待機電力の低減 等	P13
	143千t-CO <sub>2</sub> 以下	141 千t-CO <sub>2</sub>		
物流	CO <sub>2</sub> 排出量 9.8 千t-CO <sub>2</sub> 以下	8.6千t-CO <sub>2</sub>	● 積載効率向上と部品移管等によるCO <sub>2</sub> 低減	
開発・設計	開発車種毎にリサイクル率、リサイクル解体時間の目標を設定	リサイクルの目標を達成	● 開発車種毎にリサイクル設計の推進（解体容易な構造の開発およびリサイクルしやすい素材の採用）	P12
生産	廃棄物 7.6 kg / 台 以下	7.5 kg / 台	● 廃棄物の発生源対策、アイテムの横展とリサイクル推進 ・脱水汚泥や未着塗料の含水率低減 ・不要品の再利用推進等	P15
物流	梱包資材使用量 880 t 以下	680 t	● 梱包材の一体化やサイズの適正化等を推進	—
生産	水使用量 2.3m <sup>3</sup> / 台 以下	1.7 m <sup>3</sup> / 台	● 工業用水の再利用や節水活動等を推進	P15
開発・設計	開発車種毎に環境負荷物質の低減目標を設定	環境負荷物質の目標を達成	● 開発車種毎に低減目標を設定し活動を推進 ● 欧州REACH規則※に対応した着実な取り組み ※REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則	—
生産	VOC 25.5 g / m <sup>2</sup> 以下	24.6 g / m <sup>2</sup>	● 塗装の塗着効率向上 ● 塗装洗浄シンナーの使用量低減および回収率向上等を推進	P16
・社会貢献活動の推進		● 東日本大震災 被災地の復興支援ボランティア活動を推進 ● 各事業所周辺での交通安全啓蒙と清掃活動を実施 ● 環境諸団体の環境保護活動への協力		P26~27
・環境マネジメントの強化、推進		環境違反・苦情 :ゼロ達成	● 違反・苦情の発生防止活動として、他社事例の横展および環境施設の点検と未然防止活動の推進	—
・ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進		● 連結子会社の環境違反・苦情防止活動とCO <sub>2</sub> 等の環境パフォーマンスの管理推進 ● グリーン調達ガイドラインに基づく活動と地域と一体となったものづくりの推進		P23 P29
・サステナブルプラント活動の推進		● サステナブルプラント活動のコンセプトに基づき、各地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」を推進		P17~21
・環境教育活動の充実と推進		● 全従業員、新入社員、新任環境管理推進者への教育を計画通り実施		—
・環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実		● 環境社会報告書の計画的な発行・情報開示と各事業所毎の環境対話集会によるコミュニケーション活動を実施		P22

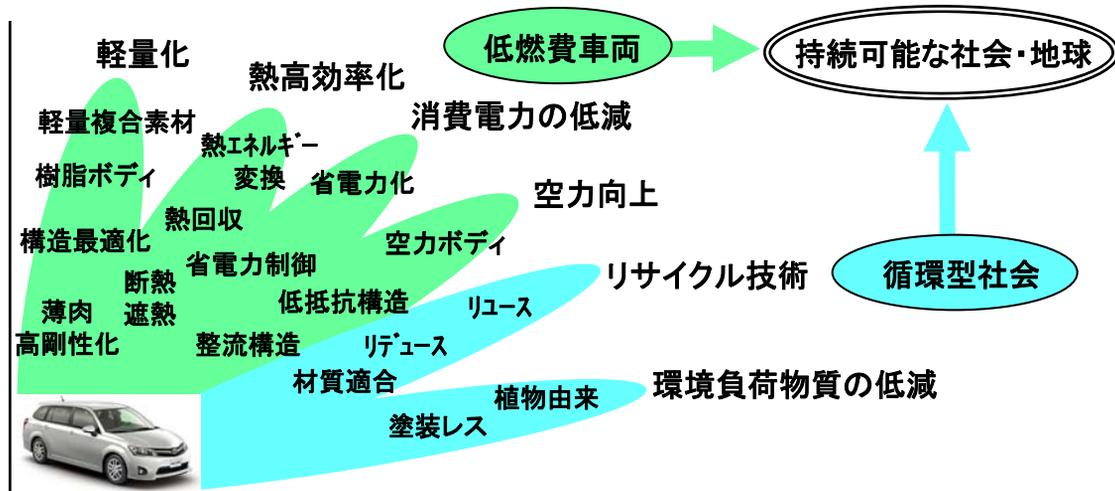
## 開発・設計

### 環境に配慮した製品・技術開発

当社では常に環境との調和、後世への循環型社会の実現を目指して、製品開発や技術開発に取り組んでいます。現在、当社が開発し生産する製品が、将来にわたって環境負荷を少なくするために、LCA(ライフサイクルアセスメント)の視点に立ち、開発・生産から使用・廃棄に至るすべての段階で環境に及ぼす影響を配慮し、お客様に提供しています。

### 技術開発の取組み

当社が開発し生産する製品の環境負荷を低減するために、様々な角度から技術開発に取り組んでいます。



### 低燃費(Eco Drive Support)

Eco Drive Supportは、エコドライブの意識向上に寄与しています。

#### TFT マルチインフォメーションディスプレイ 【事例】カローラHV

運転に関する多彩な情報や、エコ運転の採点・ランキング機能等の表示により、楽しみながらエコ運転をナビゲートします。



エネルギーモニター

エコジャッジ

燃費ランキング

走行結果表示

ENGINE  
BATTERY  
PWR  
ECO  
CHG  
評価 100/100  
エコ加速  
安定走行

2nd	1st	3rd
36.8 km/L	37.2 km/L	35.6 km/L
2011.10.12	2011.12.19	2011.11.24
81.5 km	57.7 km	

AVG 32.5 km/L

今回の走行	走行距離	419.0 km
	走行時間	6 h 25 m
	燃費	20.0 km/L
	消費	¥ 1022



材料・電子技術部  
第1電子開発室  
宮崎 泰輔

## 開発・設計

### 低燃費(消費電力の低減)

燃費向上のために、ヘッドランプの消費電力低減を図り、環境に配慮した取組みを積極的に推進しています。

#### LEDヘッドランプ

【事例】北米向けカローラ

LEDを光源に採用する事により、長寿命で消費電力の少ないランプを実現しました。更に、レンズの樹脂化により軽量化を図りました。



第2ボデー設計部  
第2機器設計室  
村杉 晋也

低炭素社会の構築

循環型社会の構築

自然共生社会の構築

環境マネジメント

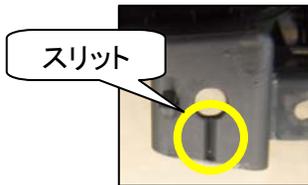
### リサイクル性向上(廃棄物の低減)

リサイクルしやすい素材・リサイクル材の利用促進や解体しやすい構造の採用、廃棄物の発生抑制など、廃棄物低減に向け多面的に推進しています。

#### インストルメントパネルの解体作業性向上

【事例1】北米向けカローラ

ボディへの締結部にスリットを付加し、解体時の作業時間を短縮しました。



インパネ裏面視

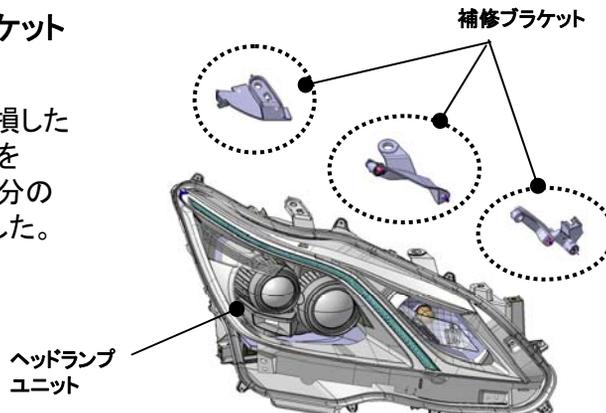


第2ボデー設計部  
第1内装設計室  
高井 一郎

#### ヘッドランプ用 補修ブラケット

【事例2】マジェスタ

軽衝突などで取付部が破損した際に、ヘッドランプユニットを再利用できるように、取付部分の補修ブラケットを設定しました。



第2ボデー設計部  
第2機器設計室  
青島 良輔

## 生産

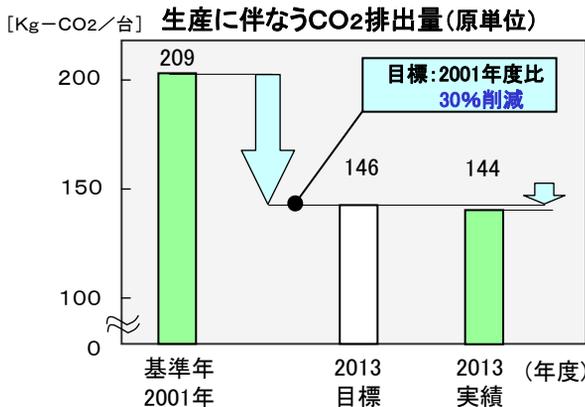
### 省エネルギー・温暖化防止

当社は「社会・地球の持続可能な社会」の実現に貢献するため、車づくりを通じて地域と共生し、自然と調和するものづくりに全社を挙げて取り組んでおります。

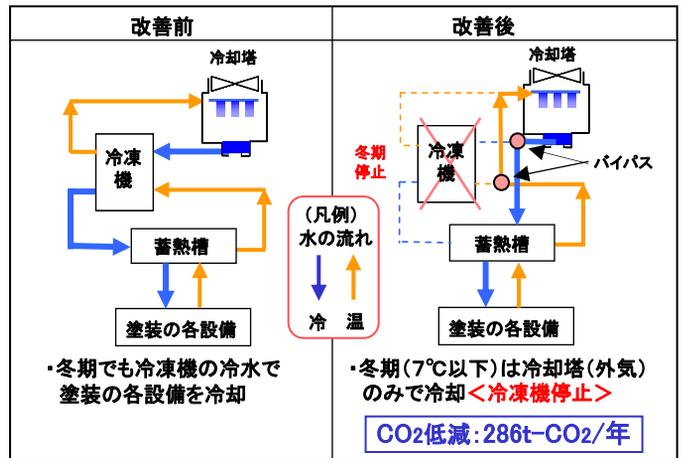
その中で、テーマの一つである低炭素社会の構築に向けては、2015年度を目標年度とした「第5次環境取組みプラン」に基づき、省エネルギーと温暖化防止に向けた活動を推進しております。

### 生産に伴うCO<sub>2</sub>排出量の低減

生産活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を低減するために、省電力やからくり技術等を活用した、ものづくり改革や設備の運転条件見直し、非稼働時の待機電力低減等、全社を挙げて推進し、2013年度目標を達成することができました。



#### 【改善事例】冬の空調機外気導入による冷凍機停止



### ものづくり改革の取組み

当社はグローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力を確保するために、生産設備・工程のシンプル、スリム、コンパクト化へ全社を挙げて取組み、省エネルギーに貢献しています。

#### 【改善事例】省エネルギー・軽量・少スペースな簡易搬送機の開発

改善前	改善後
<p>・搬送工程ではモーター7台搭載のロボット2基を使用している為、エネルギーやスペースを多く使用</p> <p>&lt;走行ロボットで搬送&gt;</p> <p>モーター7台×2基 合計14台使用</p> <p>消費電力: 2.56kWh スペース: 45m<sup>3</sup></p>	<p>・ロボットの使用を廃止し、小型モーター&amp;からくりを使用した簡易搬送機を開発し、省エネ、省スペースを実現</p> <p>&lt;小型モーター4台&amp;からくりを使用&gt;</p> <p>消費電力: 2.08kWh スペース: 23m<sup>3</sup></p> <p>CO<sub>2</sub>低減: 693kg-CO<sub>2</sub>/年</p>

生産

省エネルギーへの取組み事例（宮城大和工場）

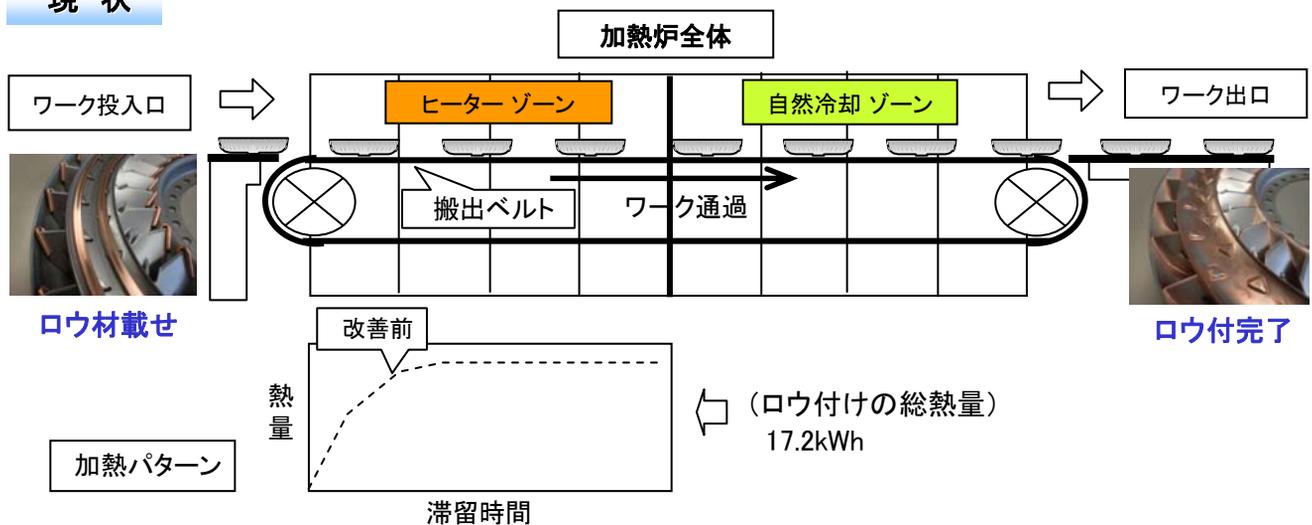
加熱炉 ワーク処理速度UPによる電力削減

生産設備で加熱炉でのロウ付けが最も電力を多く消費していることに着目し、トルクコンバーター加熱炉の構造・熱効率を調べた結果、ロウ付けに要するワークの処理時間が長いことを発見。そこで品質を考慮した上で最適な熱量を算出し、加熱炉の設定時間を短縮、使用電力の削減に取組みました。今後も省エネアイテムを発掘し、関係部署と協力しながら改善に取組みます。



宮城大和工場 工務部  
安全・環境G 阿部 浩一

現状



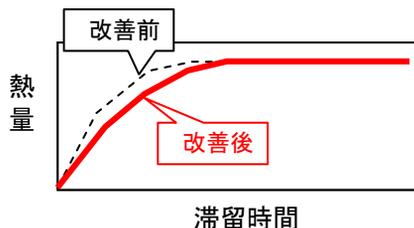
- 着眼点**
- ・ロウ付けに必要な熱量(温度・時間)の最適化
  - ・ワーク処理速度のUP

改善後

改善内容

生産部、品質管理部の協力を得て、品質と省エネルギーが両立する加熱条件の範囲内で見直し

	現状	改善後	効果
ロウ付けの総熱量	17.2kWh	15.48kWh	10%低減
ワーク処理速度	基準	現状比10%UP	—



効果

電力量削減量 : 185,600 kWh /年  
CO2低減量 : 68,800 kg・CO2/年

## 生産

当社は循環型社会の構築に向け、生産段階における廃棄物の発生源対策やリサイクルを通じて資源を有効に利用するとともに、水使用量の低減等に取り組んでおります。

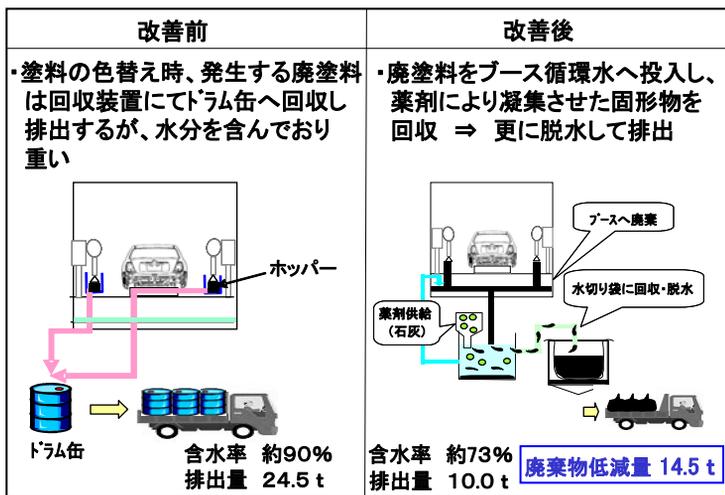
### 廃棄物低減活動

生産活動に伴う廃棄物を低減するために、塗装工程から排出される脱水汚泥や未着塗料の含水率低減、あるいは不要品の再利用等を推進し、2013年度目標を達成することができました。

[kg/台] 車両生産工場 廃棄物排出量(原単位)



#### 【改善事例】 廃塗料の脱水処理による廃棄物低減



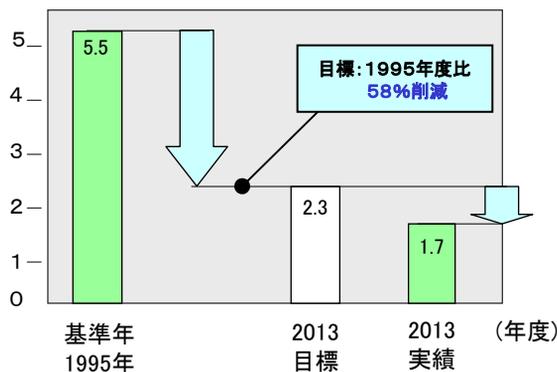
#### 【改善事例】フリーマーケットによる廃棄物低減



### 水使用量の低減

水使用量を低減するために、塗装工程で使用する工業用水の再利用や全員参加の節水活動等により、2013年度目標を達成することができました。

[m³/台] 水使用量(原単位)



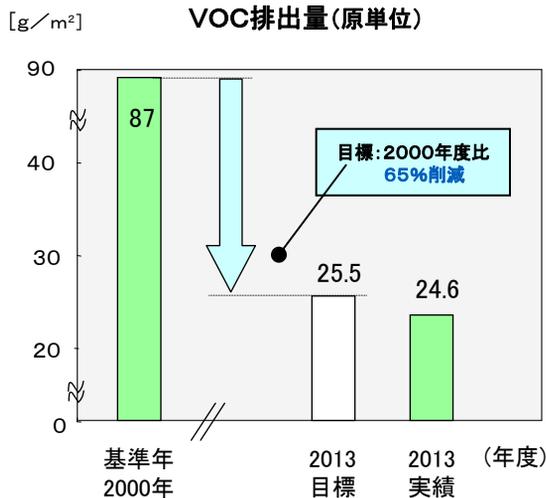
## 生産

当社は人の健康と環境への悪影響を最小化するために、生産工程で使用する化学物質を環境負荷の少ないものへの転換や使用量・排出量の低減を推進しています。  
第5次環境取組みプランでは、VOC対象物質の管理と低減を取り上げ、主にボディ塗装および部品塗装(バンパー塗装他)工程を重点に、塗料やシンナーの使用量を低減しております。

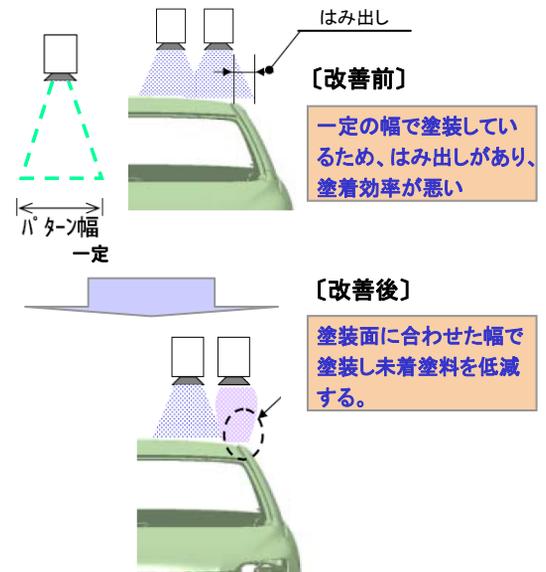
### VOCの低減

VOC※1排出量を低減するために、塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上等を実施し、2013年度目標を達成することができました。

※1 VOC (Volatile Organic Compounds)  
揮発性有機化合物(シンナー等)  
[ボディ電着塗装面積当りの排出量]



#### 【改善事例】パターン幅の改善による塗着効率向上



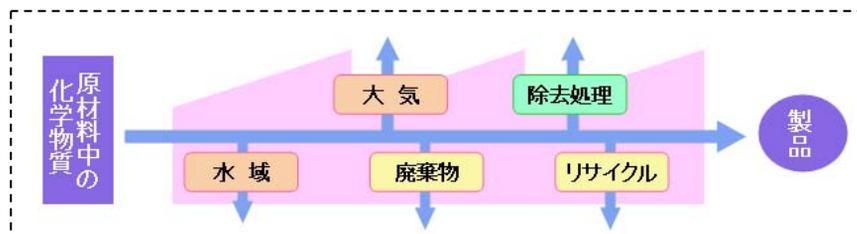
### PRTR対象物質の低減

2013年度のPRTR※2法対象物質の大気・水域への排出、および廃棄物・リサイクルとしての移動は下図のようになります。

生産工程で使用するPRTR対象物質は、塗装工程で使用する塗料・シンナーに含有する物質が殆どのため、VOC排出量の低減活動と連動し低減を図っています。

※2 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)  
環境汚染物質排出・移動登録

#### ◀2013年度PRTR法の対象物質の排出・移動のイメージ図▶



## 環境保全活動

当社は車づくりを通じた住みよい地球と豊かな社会づくりに貢献するため、地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」に全社を挙げて取り組んでおります。

### 本社・宮城大衡工場

#### 自然を活用し自然と調和する工場づくり

「コンパクト・フレキシブル・ハーモニー」をコンセプトに 地域社会・自然との共生を図りながら車づくりを行っています。

#### 1. 森づくり

従業員・家族や関連企業の皆様と近隣の「万葉の森」にて、どんぐり拾いを実施し、現在苗木を育成しています。今後、育った苗を植樹し、木々に囲まれた工場づくりを進めていきます。



どんぐり拾いの様子



育った苗木

#### 2. 遊歩道、一里塚の復元、植樹会

遊歩道や結の森づくり、一里塚の復元、植樹会等の取組みに対し、大衡村と宮城県より推薦をいただき、平成25年度緑化優良工場表彰「日本緑化センター会長賞」を受賞いたしました。



遊歩道



植樹会



日本緑化センター会長賞を受賞

#### 地域社会への貢献(美化活動等)

従業員による工場周辺道路と駐車場周りの清掃活動を定期的に行っています。



駐車場周りの清掃活動



工場周辺の道路を清掃



環境保全活動

宮城大和工場

「高効率でエコを追求するユニット工場」をスローガンに、「自然との共生」・「地域との絆づくり」  
「従業員のエコマインド醸成」を推進しています。

自然を活用し自然と調和する工場づくり

食堂棟南側に地域の和町と当社の各拠点を絆でつなぐ植栽コーナーを設置しました。  
地域と各拠点の方角と県・市・町・村が大切にしている花木に拘りを持ち、3社統合1周年を記念して  
2013年7月1日、植樹式を行いました。

宮城大和工場レイアウト図

食堂棟

②大和工場方面  
(ミヤギノハギ)

③ 岩手工場方面  
(桐)

① 大和町役場方面  
(デンショウジョウモミジ)

④ 東富工場方面  
(キンモクセイ)

宮城大和工場 (イロハモミジ)

地域社会への貢献(美化活動等)

従業員による工場周辺道路と駐車場周りの清掃活動を4月～12月に実施しています。  
また、地域企業と連携した周辺の池や公園の美化活動も実施しています。



工場周辺の道路を清掃



工場近隣の池周辺を清掃



清掃で集められたゴミ

## 環境保全活動

### 岩手工場

「人と環境にやさしい車づくり」を合言葉に、緑豊かな岩手の地で地域や自然との共生を図りながら生産活動を行っています。

### 自然を活用し自然と調和する工場づくり

#### 1. 森づくり

「緑豊かな岩手の環境との共生」を目指し、自然エネルギーの活用や森づくり等による生態系保護を推進しています。過去5回の植樹会で累計14,400本を植樹しました。



従業員どんぐり拾い



芽吹いた苗の植替え

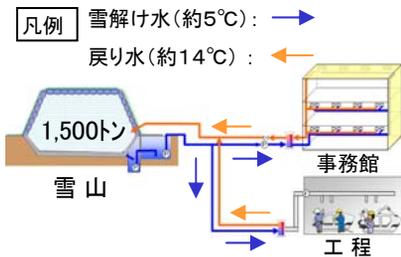


第5回植樹会

#### 2. 雪冷熱利用

雪解け水を利用し、夏場の事務館の冷房として使用しています。また、新たにJRコンテナを活用した移動式雪冷房や暑熱対策飲料冷蔵実験等、更なる雪冷熱の有効活用に取り組んでいます。

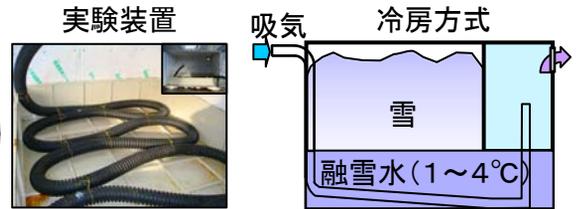
##### 事務館・組立冷房用雪山



##### JRコンテナの活用



##### JRコンテナ冷房実験



コンテナで溶けた雪水に空気を通し冷房

#### 3. 地中熱利用

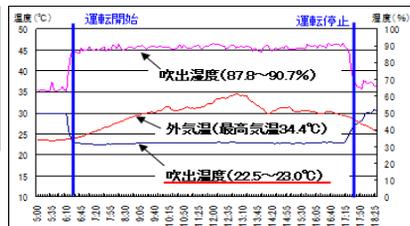
地中にある既存の雨水配管を活用した冷房実験を実施しています。

##### 雨水配管の概要



雨水配管：工場内に降った雨水を集めて流す配管です。  
(3.6kmの配管が工場内の地中に埋まっています)

##### 地中熱冷房データ



外気温が変動しても  
温度・湿度一定吹出し

##### 雨水配管内の空気での工程の暑熱対策



工事中状況

導入工程内の状況

効果：約 6.5<sup>トン</sup>/年のCO<sub>2</sub>削減  
(継続確認中)

## 環境保全活動

### 岩手工場

#### 地域社会への貢献(美化活動等)

工場周辺道路の清掃や草刈を定期的に行っています。金ケ崎町主催の「金ケ崎町クリーン作戦」「ふるさと守りたい清掃活動」の清掃奉仕活動、その他地域のイベントにも積極的に参加しています。

#### 1. 金ケ崎町クリーン作戦

雪が解けた4月、豊かな水と緑の町 金ケ崎を次世代に引き継ぐため、ゴミ拾いを実施しました。また、従業員による清掃活動を(1回/月)実施しています。



清掃奉仕活動

#### 地域社会への貢献(ボランティア活動等)

#### 1. 金ケ崎町スノーバスターズ

金ケ崎町内の高齢者・障がい者の自宅で、積雪で困っている方々の除雪支援活動を行っており、地域活動のために参加しています。



通路の除雪作業活動

#### 2. 震災復興ボランティア

大槌町の震災後、出来ていなかった砂浜のゴミ拾い、町内の排水溝の清掃、台風被害の清掃活動にも参加しています。



排水溝清掃活動

### 【環境大臣表彰を受賞】(平成24年度 環境対策に係わる模範的取組み)



中(達増岩手県知事)  
左(上野地域連携担当部長)  
右(佐野工場長)



表彰状(平成25年6月に受賞)

#### 《制度概要》

- ・環境省が公害防止について先進的な事業活動や事業者などに対し、環境大臣賞を授与する制度

#### 《推薦者》

- ・岩手県 県南広域振興局

#### 《推薦理由》

- ・地域を巻き込んだ森づくり(植樹:5回実施)
- ・コジェネ導入、部品輸送の貨物輸送化推進
- ・自然エネルギー(雪冷熱・地中熱)利用の研究、開発

## 環境保全活動

## 東富士工場

自然に恵まれた富士の裾野で、地球環境及び地域との共生を図り、継続的な環境管理活動を推進しています。

## 自然を活用し自然と調和する工場づくり

## 工場スローガン「富士山の水と緑を守る活動」

## 1. わさび栽培

清水が必要とされるわさび栽培を富士山の地下水を活かして2011年度より始めています。2013度はわさびの郷を再度訪問し、栽培に適した土壌について学び、ポットと子砂利による土壌改良を行いました。まだ60本の苗たちですが、量産に向け夏場を乗り切る為の対策を進めていきます。



わさび栽培の土壌改良



苗の生育状況('14年4月)

## 2. マイクロ水力発電

生産活動で使用済となった工業用水を浄化する排水処理施設の放流口にマイクロ水力発電機を設置し、電力の有効利用を考えました。今後、電力活用を図る為、充電方法について検討していきます。



水力発電機設置('13年4月)

## 3. 芝桜植栽

工場内緑化活動の一環として始めた芝桜植栽から本年度で3年目を迎えます。芝桜は一般的には咲き誇るまで約6年要すると言われており、最初は数輪で、1苗がソフトボールほどの大きさでしたが、現在はサッカーボールの大きさまで生育しています。



芝桜の生育状況('14年4月)

## 地域社会への貢献(美化活動等)

## 1. 美化活動

従業員によるクリーンキャンペーン活動ならびに基幹職によるハッピーハート活動を実施し、工場周辺道路(岩波駅まで)や駐車場周りの清掃活動を定期的に行っています。

(活動頻度)クリーンキャンペーン: 月1回

ハッピーハート : 週1回



岩波駅周辺の清掃



五竜の滝周辺の清掃

## 2. 河川清掃活動

従業員による狩野川水系・裾野市中央公園「五竜の滝」周辺の美化活動を定期的に行っています。

## 地域社会とのコミュニケーション活動

当社は良き企業市民として、社会との調和のある成長を目指し、地域の皆様とコミュニケーションを図りながら、環境保全活動を推進しております。

### 宮城大和工場

#### 1. コミュニケーション活動(仙台北部工業団地各企業)

北部工業団地の各企業との情報交換・相互研鑽を目的に、大和・大衡エコフォーラムを各企業輪番で年4回開催しました。その中で近隣の廃棄物処理施設の見学や、蛍光灯と乾電池の共同回収を行い、物流CO<sub>2</sub>削減による地球温暖化防止および各企業のコスト低減にもつながる活動を推進しました。



環境施設見学



意見交換会



意見交換会

### 岩手工場

#### 1. 環境コミュニケーション報告会

地域住民との情報共有、共通認識を目的に、金ヶ崎町民、奥州市民、県内企業の皆様をお招きして報告会を開催(7月15日)し、環境に関する取組みの紹介と意見交換を行いました。



水処理実験見学



環境設備見学(雪山冷熱利用)



意見交換会

### 東富士工場

#### 1. 環境対話集会(県政さわやかタウンミーティング)

地域との環境に関する情報の共有化を目的に、近隣住民および県内企業30名の皆様をお招きして環境対話集会を開催(2月11日)し、環境に関する取組みの紹介や環境施設・工程の見学と意見交換を行いました。



環境設備見学  
(CO<sub>2</sub>ジェネレーション)



工程見学及び省エネ事例  
(プレス工程)



意見交換会

## 子会社の取組み

第5次環境取組みプランでは、当社と連結子会社が取組み項目と目標を共有しながら一体となって活動を推進し、グループ会社のレベルアップを図っています。

### セントラル総合サービス(株)の取組み

廃棄物の適正な処理とリサイクルの向上を通じ、お客様の構内美化に寄与しております。

#### 1. 事業内容

- 会社設立 1970年4月
- 事業所所在地 宮城県大衡村、神奈川県相模原市の2拠点
- 事業内容 一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬業及び中間処分業

#### 2. 環境の取組み

- 環境方針 「全ての事業活動を通じて環境保全活動を継続的且つ計画的に推進」
- 環境管理システム 2006年7月 ISO14001 認証取得

#### 3. 主な活動内容

##### ● 美化活動

「日本一キレイで安全な中間処分工場の構築」を目指し、毎週金曜日を「4Sの日」として構内清掃を強化。また、周辺道路の清掃等も行い近隣環境にも配慮しています。



4Sの日の活動



工場緑化



周辺道路清掃

##### ● 神奈川県産業廃棄物協会事業とボランティア活動

不法投棄物撤去事業やボランティア活動にも積極的に参加し、地域の美化にも寄与しております。



不法投棄物撤去事業



ボランティア活動  
(相模原の環境を良くする活動)

##### ● 緊急事態への対応

被害を最小限にすべく対応訓練を実施し、お客様や近隣住民に安心感を与え、信頼される企業を目指し取組んでおります。



緊急事態対応訓練

## お客様との関わり

### 品質保証

#### 基本的な考え方

当社は「お客様第一」「品質第一」を実践し、お客様の期待に応える「世界一の魅力あるコンパクト車」をお届けすることを目指しています。

そのために、各分野の一人ひとりが、品質最優先の意識を持ち改善に努め、全社が連携しながらお客様の安心と安全、満足度の向上に努めています。

#### 「お客様第一」の風土づくり

全社員への「お客様第一」「品質第一」の意識浸透の仕組みとして、階層別の品質教育に取り組んでいます。

また、トヨタ自動車と連携した品質講話会、品質事例展示会等を毎年定期的開催し、品質に対する問題意識を共有しながら、各業務に取り組んでいます。

2013年度は、毎月11日を『品質教育の日』と定めて全工程員が参加し、品質知識や意識の向上を図るとともに、やりにくい作業の吸い上げと改善を行っています。

品質教育の日に行った良い教育事例や、工程員から出された優秀な改善提案は、表彰を行い他工場にも展開することで高品質な車づくりに反映しています。



品質講話会



品質事例展示会



品質教育の日(傷付きを体験)



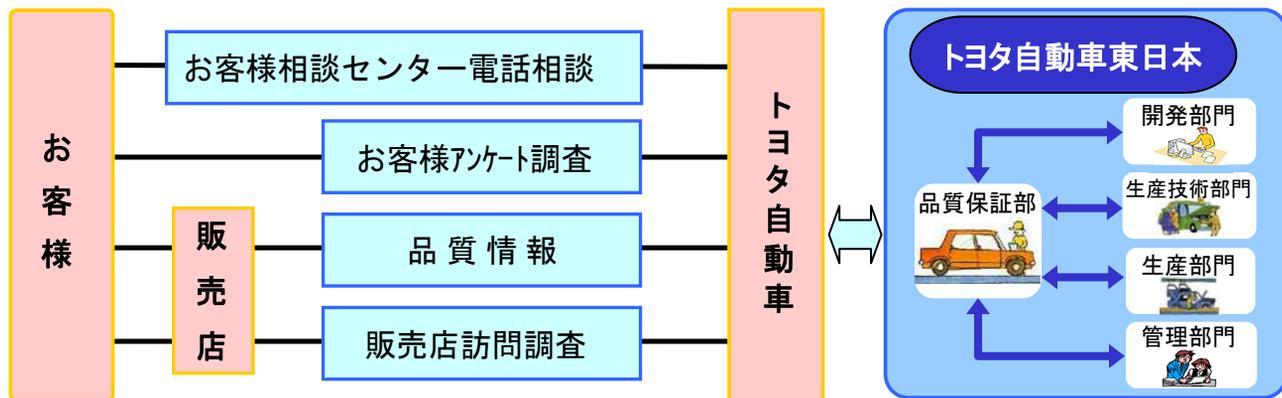
2013年度品質向上活動表彰  
品質優良賞を受賞

(勉強した工程員の声)  
お客様へ高品質な車を提供するため、標準作業を守って作業します。また、やりにくい作業があったらすぐ上司に相談し、改善します。

#### お客様の声の収集と素早い対応

お客様からのご相談やご意見、貴重な品質情報は、トヨタ自動車と連携を図り素早く改良・改善を実施し、その結果をお客様にフィードバックしています。

また、当社で生産している北米輸出車のお客様情報に対する現地現物での調査確認と、速やかな情報展開のために、米国トヨタに当社従業員が駐在し、現地スタッフと共に品質向上活動を展開しています。

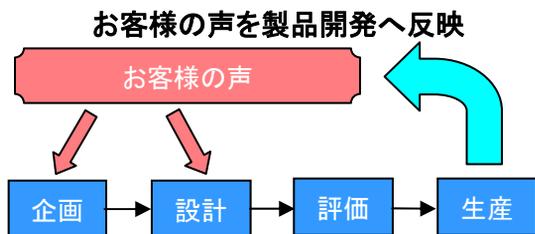


## お客様との関わり

### 人に優しい製品づくり

#### 福祉車両、福祉機器の開発

- 「すべての方に快適な移動の自由を」「お客様の幸せな暮らしのために少しでもお役に立つこと」これを合言葉に、電動車いすや福祉車両などを開発しています。
- 福祉施設や展示会にてユーザーの皆様のご意見をお伺いし、開発に活かす活動を進めています。



#### 当社で生産している福祉車両の種類

使用目的	車両仕様
助手席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
後席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
車いすのまま乗降	車いす移動車(リヤスロープ)
自分で運転	移乗補助装置付車

### お客様のご意見を伺うために



福祉機器展に出展

### 当社開発の福祉車両・福祉機器の例

#### ◆4輪駆動電動車いす

**Patrafour®**

自社開発の特殊車輪  
「WESN®」を採用



◆ウェルライド  
車いすドライバー向け  
移乗補助装置



### 東北6県の支援のために

各県と調査・協議させていただき、観光支援ツールとしてパトラフォーを合計30台(各県5台)を寄贈しました。高齢者や体の不自由な方に、ご活用いただいております。



寄贈式(宮城県)

## 社会との関わり

### 社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや地域における環境保全活動を通じて、地域社会から信頼される企業を目指し取り組んでおります。

#### 工場見学の受入

小学5年生の社会科見学の一環として、工場見学を積極的に受け入れています。宮城大衡、岩手、東富士各工場にて約36,000名にご来工いただきました。



宮城大衡工場



岩手工場



東富士工場

#### 結[YUI]ギャラリー

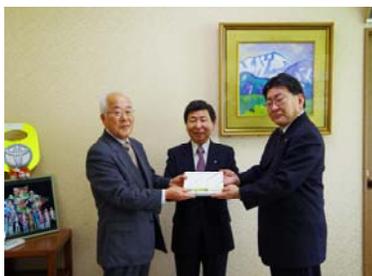
地域の皆様と当社を結びつける空間「結[YUI]ギャラリー」を2013年4月に本社・宮城大衡、11月に岩手で開設し、合計約27,000名にご来工いただきました。

ギャラリーでは当社のクルマづくりにおける「開発」の取組みやハイブリッド車の仕組み紹介、イベント出展車の展示など、目で見て触れて、体感いただける内容となっております。



#### 新入学児童への交通安全啓蒙活動

交通事故ゼロを願い、各市町村を通じて、交通ルールをプリントした直線定規を新1年生に贈呈しました。



大衡村 村長・教育長への贈呈



大和町 町長・教育長への贈呈

## 社会との関わり

### ボランティア活動

#### ● 岩手県気仙地区ボランティア活動

東日本大震災により被災された皆様が一日も早く平穏な生活が取り戻せるよう、トヨタグループでは2011年6月から岩手県気仙地区で復興支援ボランティア活動を継続しています。当社もトヨタグループの一員として、また地元企業として従業員をはじめ、社内スポーツクラブ員、トヨタ東日本学園生より有志を募り、2013年度は延べ130名が参加しました。



田畑草刈り 7月（陸前高田市）



古川沼 ガレキ分別・遺留品の回収  
10月・11月（陸前高田市）

#### ● トヨタ・マスター・プレイヤーズ, ウィーン コンサートへの協力

トヨタ自動車が主催するトヨタ・マスター・プレイヤーズ, ウィーンコンサートはウィーン・フィル及びウィーン国立歌劇場のメンバーを中心に、ヨーロッパで活躍するアーティスト仲間たちも加わった31名による特別編成オーケストラです。

当社では仙台公演、盛岡公演の開催協力をするとともに、一流の演奏に触れてもらうことで、心の復興の一助になればとの願いで、東日本大震災で被災された地区の高校生（吹奏楽部員）約370名を招待しました。

#### ● Tシャツ収集ボランティア

宮城県女川町の仮設住宅で暮らす皆様が取り組んでいる古着を活用した草履づくりに賛同し、従業員を対象にTシャツ収集を実施し、557枚を寄付することができました。

#### ● 名古屋グランパス復興支援イベントへの協力

Jリーグ名古屋グランパスがベガルタ仙台戦で宮城県を訪れる機会を活用して、県内の小学生を対象にサッカー教室を開催。

当社は名古屋グランパスとつながりがあることから、このイベントの実現に協力し、2013年の初開催では約120名の小学生が参加しました。



サッカー教室



記念撮影

## 社会との関わり

### 交通安全への取組み

自動車を製造する企業として「交通安全活動」に積極的に参画していくことは私たちの使命であります。「安全で環境に優しい車づくり」はもちろんのこと、地域や行政の皆様と連携を図りながら、従業員の交通安全意識の高揚や交通事故防止活動を積極的に推進しています。

#### 交通安全講話会の実施

近隣の自動車学校講師をお招きして、地域の交通事情を踏まえた運転注意点を講義いただき、安全運転に留意しています。



本社・宮城大衡工場



岩手工場



宮城大和工場

#### 運転講習会の実施

自動車を製造する企業として交通安全を推進するために運転講習会を実施しています。また、東北に基盤を置く企業として、特に従業員の雪道運転に対する指導を実施しています。



実際の積雪を使った雪上走行講習



スキッドカー※を使った講習

※スキッドカー：通常の車輪とは別に取り付けた補助輪により、スリップ状態の様な運転者の意図しない車両の動きを再現できる車両

#### 従業員による交通安全の呼びかけ

社内及び会社周辺にて従業員による交通安全立哨を毎月実施し、安全運転啓蒙活動に日常的に取り組んでいます。また、工場周辺の小学生下校時間にあわせた交通安全の呼びかけ活動を行い、交通事故防止を図っています。



従業員による立哨



小学生への交通安全呼びかけ活動

## 仕入先との関わり

「トヨタ基本理念」、「調達の基本方針」に基づき、オープンでフェアな取引を推進し、仕入先との相互信頼に基づく共存共栄を目指した調達活動を推進しています。

### 【トヨタ基本理念より抜粋】

- ・内外の法およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、国際社会から信頼される企業市民をめざす
- ・クリーンで安全な商品の提供を使命とし、あらゆる企業活動を通じて、住みよい地球と豊かな社会づくりに取り組む

### 【調達の基本方針】

- ・オープンドアポリシーに基づく公正な競争
- ・相互信頼に基づく相互繁栄
- ・良き企業市民をめざした現地化の推進

## 仕入先総会の開催

2014年3月、仕入先総会を開催し、仕入先へご理解とご協力をいただくため、当社の取組みについてご説明しました。今後も仕入先とのコミュニケーションを密にして競争力を高め、「ものづくりの拠点化」を推進していきます。



2014年 仕入先総会

## TMEJ協力会での活動

TMEJ協力会は以下2点を目的とし、2013年3月に発足しました。

- 当社の方向性と当社・協力会双方の課題認識を共有化する。
- 当社の使命の一つである、東北に根ざした生産活動と復興に貢献するため、東北地場企業とのネットワークづくりと相互研鑽を図る。

今後も目的達成に向け、活動の拡充を進めていきます。

## 現地調達拡大に向けた活動

### 共同展示会の開催

2013年度に現地調達化促進活動の柱として、地場企業の参入機会拡大を図るため、一次仕入先との共同展示会を開催しました。当日は多数の地場企業にご来場いただき、採用に向けて意欲的にご検討いただきました。



共同展示会の様子

### ものづくり研鑽活動

2013年7月に「ものづくり研鑽センター」を設置し、地場企業と当社が相互に学び合う研鑽活動を通じて競争力を向上する取組みを進めています。取組みは現地現物を基本とし、企業トップへの理解活動、現状調査、改善活動、評価の4ステップで実施しています。



模擬工程でものづくりの違いを体感

### 東北地区仕入先との活動

東北地区仕入先については、安全・品質等についての勉強会を重ね、相互研鑽に努めています。

### グリーン調達ガイドライン

当社はグリーン調達ガイドラインに基づく取組みを仕入先とともに実践し、環境管理の向上に努めています。

## 従業員との関わり

### 安全

「安全は全ての基盤」の考えのもと、全社を挙げて安全文化の醸成に取り組んでいます。

#### 安全の取組み

##### ● 取組みの考え方

『全員参加で安全の自立型文化を構築』をスローガンに、全社を挙げた安全活動を推進

活動の内容・質を向上させるために、PDCAを回して安全活動をスパイラルアップ

「管理監督者の拘り・根気・コミュニケーション」と「安全意識の向上と習慣化」を中心に、一人ひとりがプロとしての意識と自覚を持つ取組みを強化



安全文化の構築を誓い合う狙いで、毎年1月13日を「安全を誓う日」として活動

##### ● 「管理監督者の拘り・根気・コミュニケーション」活動

###### (1) 現地現物の安全確認と安全監査

- ・管理監督者一人ひとりが現地現物に拘った安全確認
- ・各職場の実地調査とトップによる監査で課題抽出と改善



安全担当役員による監査

###### (2) 階層別安全教育

- ・全管理監督者を対象にした安全研修(毎年)を行い、役割・責任の自覚と労働安全衛生法等を基にした危険の抽出力向上



管理監督者への安全教育

##### ● 「安全意識の向上と習慣化」活動

###### (1) 災害擬似体験教育

- ・全従業員を対象に災害の恐ろしさを擬似体験することを通じ、感性の向上を図っています。(機械の挟まれ、車両との接触、凍結路面での転倒 etc)



挟まれ擬似体験(空き缶を使用)

凍結路面の擬似体験(氷板を使用)



###### (2) ポケテナシ活動

- ・階段での手摺使用、ポケ手歩行禁止などの5項目について、一人ひとりが安全な行動を習慣化していくため、安全立哨・声掛け、職場ミーティングを行っています。



ポケテナシ啓発の安全立哨

- **ポ** ポケットに手を入れて歩かない!
- **ケ** 携帯・スマホを使いながら歩かない!
- **テ** 階段では「手すり」を使用!
- **ナ** 斜め横断しない!(歩行路を遵守!)
- **シ** 交差点や横断歩道では指差呼称!

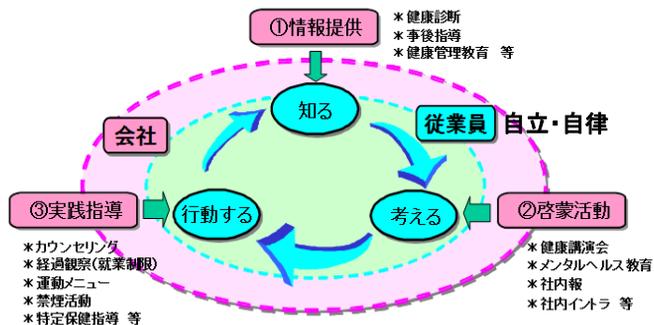
## 従業員との関わり

### 健康

#### 心と体の健康づくり活動の取組み

##### ● 健康管理活動のあり方

健康診断と事後指導を中心に、従業員の自立・自律を基本とした自らが健康を目指す取組みを進めています。



##### ● 重点取組み事項

#### 心の健康（メンタルヘルス対応）

##### ■ 発症予防・早期発見に関する活動

- ① ラインケア ※1 の充実
  - ・ ストレスチェック結果に基づく、組織診断および職場対策の実施
- ② 管理監督者教育の実施継続
- ③ カウンセリングの活用促進

※1 ラインケア：管理監督者が社員へ個別指導・相談や職場環境改善を行う取組み

#### 体の健康（生活習慣病予防）

##### ■ BMI値低減に向けた活動

- ① 社員食堂へのヘルシーご飯（マンナンライス）の導入
- ② 健康講演会開催による啓蒙活動

##### ■ 喫煙率低減に向けた活動

- ③ 就業時間内の禁煙
- ④ ニコチンパッチ処方による禁煙治療

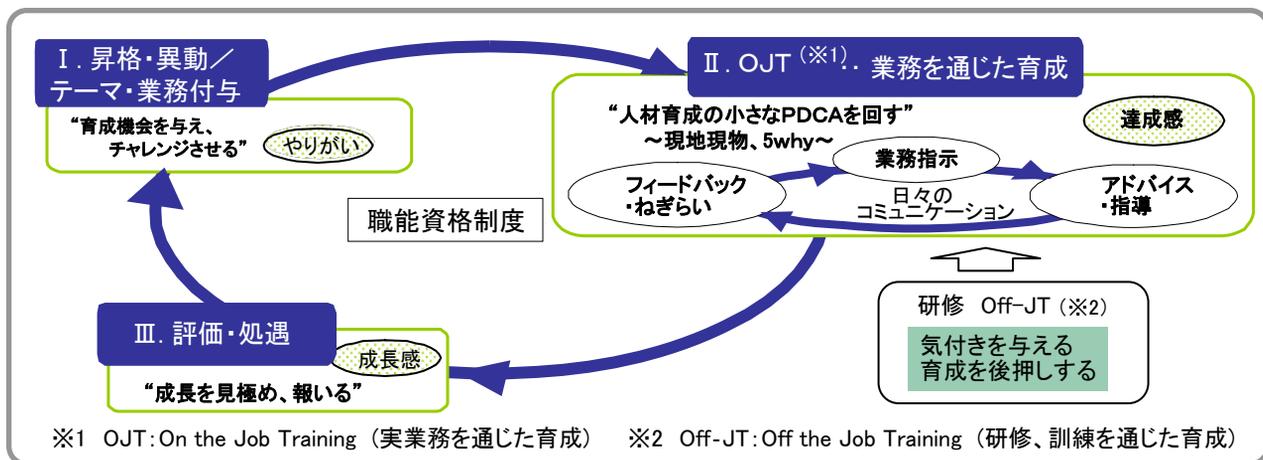
## 人材育成

我々は「東北を基盤に世界一の競争力を持つ魅力あるコンパクト車をつくる」ことを目指すために、「人が育つ・人を育てる」取組みを進めています。

#### 人材育成の仕組み

当社の人材育成の基本的な考え方は、職能資格制度を中心に、「テーマ・業務付与」⇒「OJT」⇒「評価・処遇」⇒「昇格・異動」の人事サイクルをしっかりと回すことです。これを補完するしくみとして、気付きを与え、育成を後押しする各種研修制度（Off-JT）があります。

職場での業務を通じ、上司が部下を一貫性を持って継続的に育成するOJTを基本に、日々のコミュニケーションの積み重ねを通じ、上司部下、先輩後輩が「教え教えられる風土」の中で、お互いにスキル向上を実感でき、この風通しのよい風土が職場力・現場力の向上につながっていきます。



※1 OJT: On the Job Training（実業務を通じた育成）

※2 Off-JT: Off the Job Training（研修、訓練を通じた育成）

## 従業員との関わり

### 人材育成

#### トヨタ東日本学園の開校

2013年4月にトヨタ東日本学園を開校し、将来ものづくり現場の中核として活躍できる人材の育成を進めています。また社員だけではなく、東北に拠点を置く企業の若手人材にも教育コースを公開しております。

2014年3月には、第1期生の20名(当社訓練生15名、東北の地元企業5名)が卒業し、それぞれの配属職場で活躍しています。



トヨタ東日本学園 外観



第1期生の卒業式



実習風景

### 働き方の多様性と機会均等

少子高齢化社会の進展、男女共同参画社会の実現に向けた社会的意識の高まりなど、労働市場を取り巻く様々な環境変化に対応し、多様な人材が活き活きと働ける環境を作り出すことを目指し、当社では「育児・介護支援」「高齢者雇用」「障がい者雇用」などに取組んでいます。

#### 育児・介護支援

育児や介護に対する諸制度と働きやすさを追求した勤務制度の充実に継続的に取り組んでいます。産前休暇前や育児休職などから復職する際には、今後の働き方について本人と上司がしっかりと考える機会を作るため、面談を行っています。

#### 高齢者雇用（定年再雇用制度）

満60歳で定年退職される方について、会社で培った高い技能・技術を活かしていただくことを目的に、定年再雇用制度を導入しており、多くの方が現役として活躍しています。また2011年度からは、より働きやすいよう「半日勤務制度」を導入しました。

#### 障がい者雇用

企業の社会的責任という点からも、障がい者雇用促進に積極的な活動を行っています。「健常者・障がい者がともに活躍できる職場づくり」を目指し、従業員全員が活き活きと働ける環境づくりに取り組んでいます。2013年度はそれらの活動が認められ、静岡県から「障がい者雇用優良事業所知事表彰」を受賞しました。



「障がい者雇用優良事業所知事表彰」(静岡県)

### 労使関係

当社の労使関係は労使相互信頼・相互責任を基本的な考え方としています。お互いを理解・信頼し、協力し合うことで初めて、会社の発展と従業員の自己実現が達成できるものと考えています。このため定期的に話し合う場を設けて活発な意見交換を行ない、相互に理解・信頼し合えるよう努めています。

## 従業員との関わり

### スポーツ活動支援

従業員が一丸となって応援することを通じ、職場の一体感醸成やコミュニケーション向上を目的に3つのスポーツクラブ活動に力を入れております。

#### スポーツクラブ活動

##### ●セーリングチーム

1970年に発足し、1988年のソウルオリンピック出場を初めとして、2012年ロンドンオリンピックまで6大会連続出場しており、2004年アテネオリンピックでは、470級で念願の銅メダルを獲得しました。また、2013年度もワールドカップアメリカ大会にてRS:X級で銅メダルを獲得するなど、日本を代表するチームとして活躍しております。



2013年度 ワールドカップにて銅メダル受賞

##### ●ハンドボール部

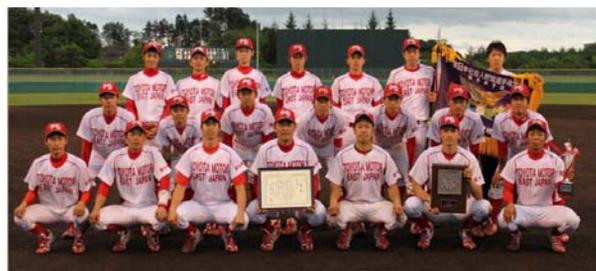
1996年に創部され、2012年度より国内最高峰の日本リーグに参戦し、日本一を目指し活動しております。また、2013年度では日本リーグ6位となり、個人成績でも新人賞、得点王を獲得するなど著しい成長をみせております。



2013年度は日本リーグホーム4連勝など快進撃を見せた

##### ●硬式野球部

2012年4月に創部され、「仕事も野球も100%」をスローガンに都市対抗野球大会本選出場を目標に活動しております。2013年度は都市対抗野球大会で東北二次予選まで勝ち進み、日本選手権では東北最終予選決勝勝まで勝ち進むことができました。



岩手県を代表するチームとして活躍

#### 社内駅伝大会

従業員の一体感やチームワークを醸成し、職場のコミュニケーションを活性化させる施策として、駅伝大会を実施しております。

開催2年目の2013年度は、シニア・女性チームの参加など、より多くの従業員が楽しめる大会となりました。



選手の力走(第2回大会)

**【読者の皆様へ】**

ご意見、ご要望をお聞かせいただきたく、こちらのメールアドレスに宜しくお願い致します。

[ci\\_ankan@toyota-ej.co.jp](mailto:ci_ankan@toyota-ej.co.jp)

We Need  
The Green Earth



環境ロゴマーク

発行部署 トヨタ自動車東日本株式会社 安全・環境室  
〒981-3609 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地  
お問い合わせ先 安全・環境室 環境グループ  
TEL 022-765-6172  
FAX 022-765-6487  
発行 2014年6月